

【評議員会議事録】

日 時：2008年9月12日（金）12：30～13：30

場 所：岡山理科大25号館4階会議室

出席者：井上、岡村、海部、郷田、柴田、中川、宮川、渡部、坂田、佐藤、谷口、筒井、観山、望月、山田
（以上15名）

有効表決状提出者：永田、池内、杉山（以上3名）

欠席者：家、須藤（以上2名）

他に理事会より、土佐理事長、花岡、高田、北本、田村、中本各理事と東條事務長が出席した。

議事に先立ち、議長に観山氏、署名人として岡村、柴田氏が推薦され了承された。

報 告

1. 前回議事録の確認

高田理事より前回の議事録について資料1に基づいて説明が行われ、確認された。

2. 開催中の年会・今後の年会について

中本理事より開催中の年会について口頭で報告が行われた。2日目正午現在で登録者数は約740人、講演数は670件。記者会見には8社・10名が訪れ、報道は全国紙を含めた4紙において確認されたほか、地元のテレビ・ラジオでも紹介されたことが報告された。

3. 宇宙基本法下の宇宙科学について

井上氏より配付資料に基づいて、宇宙基本法下の宇宙科学についてということで、宇宙基本法の内容と、それに対応して今後、宇宙科学を遂行する上でどのように進むべきかの骨組みについて説明が行われた。8月27日施行で内閣総理大臣中心の戦略本部が設置され、これから1年で事務を内閣府に行わせるための法整備等が行われる。

JAXA等に大きな見直しがかかることもあり得るとのこと。自民党宇宙特別委員会宇宙科学政策小委員会の中間報告におけるまとめの紹介も行われた。

大学とのつながりの明確な位置づけ、組織についての見直しの部分は大変重要であり注意して動向を見極める必要ありとの認識で一致した。

多くの懸念などが示されたが、ボトムアップと大学との共同は死守するべきものであろうとの意見で一致し、その点をアピールすることが必要であり、天文学会などの関連分野が声を上げるべきものであるとの意見が出され、理事長を中心としてアピールの原案を至急作成し、評議員にも回覧して、今後の組織改革に対する要望書を提出することで合意した。

4. 天文学会の世界天文年の取り組み他

海部氏より資料2に基づいて天文学会の世界天文年への取り組みについての現状と提案が行われた。

(1) シンポジウムについて

現在、日中韓台の天文学会が協力して、世界天文年を記念した合同企画を開催する方向で話が急ピッチで進んでいる事、その中身としては、例えばある程度分野を限ったものとなるが、その分野で興味を持った人々が集まって行うシンポジウム等が考えられていること、将来に渡ってはそれらを合同学会等に発展させていくことを視野に入れている事などが報告された。

とりあえず、天文学会としては協力をしていく事を前提に、ワーキンググループを組む形で取り組んでいくことを合意し、今後は國枝副理事長を中心として具体的な取り組みを行っていくこととした。

(2) 東アジア天文学会の協力について

世界天文年をきっかけにして東アジアの天文学会間の協力体制を確立していく希望を持っているが、世界天文年に関する研究者の参加が日本は少ないとの指摘が行われ、もっと積極的に取り組んでいくためにも、天文学会としての世界天文年担当を決めてもらいたい旨、提案された。

これについては土佐理事長より、前日の理事会での議論の紹介があり、学会間の協力等については、今後國枝氏を中心に検討を行い、少し長いスパンについて考えることを想定していること、また、将来的

に合同で年会を行うためにはどういった対応が必要かを考えていく方針である旨紹介された。

(3) 中国の新しい雑誌の作成について

中国において新しい天文学の学術雑誌が刊行されることになり、Call for paper がまもなく出ること、日本の代表的なプロジェクトについてレビュー的なものを出せばよいと考えており、関係者に声をかける予定であることが紹介された。

日本としてはしばらく様子を見守りながら状況を判断するとし、何らかの意見交換を適宜行う必要があるとの見解が示された。

5. その他

(1) 百周年記念事業のまとめ（月報記事について）

高田理事より口頭で学会創立百周年を記念して行った事業について、会員に対する報告を2009年1月号において行うために、現在原稿をまとめる準備をしていることが報告された。

(2) 本年度末での100年史編纂委員会の解散と内規抹消

高田理事より口頭で、本年度末において100年史編纂委員会を解散することが理事会で承認されたこと、また、委員会の内規の抹消については次回の評議員会で決議する予定であることが報告された。

(3) 小惑星・彗星・流星に関する国際会議

渡部氏より2011年日本開催予定である小惑星・彗星・流星に関する国際会議について、天文学会との共催を理事会に提案して承認されたことが紹介された。

(4) 百周年記念出版事業の現状について

岡村氏より配付資料に基づいて百周年記念出版事業の現状について報告が行われた。まだ配本の予定が立っていないものがあり、今後も原稿の回収を続けていく旨、報告された。

議 題

1. 指定管理者制度に関する共同声明

天文教育普及研究会の松村氏より提出された資料3に基づいて、高田理事が指定管理者制度に関する共同声明について説明を行った。

天文教育普及研究会や日本公開天文台協会などが連名で行政機関に対して提出する指定管理者制度に関する共同声明に対して、日本天文学会も連名で参加することを要請している内容であること、過去の理事会や評議員会において指摘された箇所を修正して、かなり分かり易くなっていること、制度そのものは問わず、むしろ継続性と専門性の維持を訴える内容になっていることなどが説明された。また、補足説明として、この声明をまとめるにあたって天文教育委員会の野田氏が学会を代表して関与をしながら進めて来たことが報告された。

内容については問題なく了承され、天文学会も連名で共同声明を出すこととした。

次回は1月24日（土） 時間・場所は未定。

2008年10月1日

議 長 観山 正見

署名人 岡村 定矩

署名人 柴田 一成